



平成6年7月20日 一頁 発行所 3700-3634 TEL. 3700-3634

老後の生きがい

田中 佐々木

昭和六十二年五月、七十才で退職、五十年近いサラリーマン生活も無事終えた。まだまだ元気な私は、区の本報紙で、用賀産産場の記事を見て訪ねてみた。

自宅から徒歩で十分程。明かるい窓の作業室で三十人位が楽しげに作業していた。説明をしてくれた指導員に「七十才なんて年寄りではない」と言われて、早速七月から利用させていた。早くも六年になる。

ここで働いている人は六十才以上、中心は七十才代で、八十才代の人もあります。仕事は九月、四月、三月で、簡単な手作業。指先を使い、適当に室内で動くので、健康にも良く、皆元気で老後の生きがいとして楽しく働いている。

私の趣味は園芸と旅行。暮会所に月五、六回通い、ホケ防止に努め、又、気の合う仲間と年にて、八回気楽な旅行を楽しんでいる。



心曲豆かな日々を

南原 幸吉 伊達 百合

用賀に移り住んで四十二年、当時の赤ん坊が不惑の齢になって三児の親となり、その間に、私共の親四人をこの地で見送りました。

泥んこ道に車が入り、離れしたのも嘘のように、立派なビルも建ちました。この町に育まれ今日まで来たことを思い、感慨一入です。

時代は移って夫婦二人の生活になりました。何事にも好奇心とロマンと心の若さでチャレンジしたいと、主人は七十の手習いよろしく大学夜間講座に通い出しました。人生の収穫の時期を心豊かに過ごせたらと願っています。



デイホームは、高齢者の楽しい遊び場所です。バスの送迎により、体操、書道、手芸、民謡等盛りだくさんのお稽古、趣味が活かされ先生や職員から指導が受けられます。

また時節により花見、遠足、運動会等、楽しいレクリエーションも催されます。リスマスプレゼントには子供さん以上の笑顔が見られます。

ホーム利用の方々とお話をしていると、生活の智慧を授けられ大変勉強になります。デイホームを利用希望の方には、是非見学をお勧めします。

楽しいデイホーム

上田 純子 クリエーションも催されます。



先日老人クラブの会費を

近くのお宅へ集金に行きました。庭先から私を見かけるとすぐ手だけ袋を持って「ご苦労さん」のねぎらいの言葉で迎えて下さいました。93才の今でも元気に家事をこなして居る方です。

花の手入れも休めず、に次のお話をうかがいました。

「私も若い時がありましたが、工夫が足りないので、物を粗末にする。よく年寄りに叱られました。又この頃はなれしなれしと親はなれしなれしと聞き、三すくが、私達老人は家族と共に泣いたり笑ったりすることがあることですね。」

「グレートボールをやっている」と言う、若い方は何か老人扱いされた様に思われ、眉をひそめられます。

食べ物の食わず嫌いと同じで、一度でもグレートボールの試合を経験した方は、その魅力にとりつかれます。メンタルで奥が深く、作戦やチームワーク、相手の読み等、興味はつきません。親子の断絶、対話の欠陥が叫ばれる昨今、私はもっと若い人にも普及させて、家族全員で楽しめたらと思っています。



鈴木 武一

なんでもないのに、おじいちゃんなんでもないのに、おばあちゃん

全せん知らない他人から呼ばれた時は腹が立つ

其んな体験ありますね

小癪に降るひとことだ返す言葉は只ひとつわたし。あなたのだ

親じゃない

失礼ですぞ、あなたさんそんな気持ちの私でも

マゴに言われりや嬉しくて三つ三つ付いてゆく

他人が何で癪なのか訳は全く解らない

世界情勢どうあろうと政治の世界が変わろうと

家族安全第一だ此んな勝手な願いごと

聞いて頂戴カミ様よその為なんでも我慢して

人生航路の風に耐え働きました60年

幸仕もしました20年事故も病気も災難も

みんな上手にやりすごし今日も元気でバスの中

信号待ちの窓越しにそとと覗いた夏景色

イチヨウ並木のその中で艶ゆりソツと咲いていた

国も地方もみんなして福祉事業をやってミナ

高令社会がどうこうといろ／＼文句ゆうより

感謝々々で受けましょう其して笑顔忘れずに

丈夫で長生きナンとやら九い地球の果てまでも



“ひろば” ご希望の方は 用賀出張所においてありますので どうぞ

Table with 10 columns and 1 row, likely for subscription or contact information.

郷土紹介

大山道の田中橋



新玉川線用賀駅から旧大山道を瀬田の方向に少し進むと、首都高速三号線のガード下に田中橋と言う信号があります。ここは文字通り、かつて、田んぼの中に橋がかかっていた所です。橋の下には谷沢川が流れ水音が多かったです。近頃の子供も泳いだり、魚を採ったりしたと尋ねます。そして、大雨の時は川の水が溢れ、路面を走る玉川電車が、不通になった事もありました。

その後、耕地整理事業により、田んぼは次々と埋め立てられ、続く戦後の急速な都市化の波で、この辺りの風景は一変しました。今、私たちが、ここを通る時、橋がある事すら気が付かないかも知れません。谷沢川は、下流で等々力溪谷を形成していますが、その溪谷に清流を復活させたいという工事が、つい先月完成しました。これは区内の岡本で仙川の水を浄化し地下導水管によって、この田中橋近くまで送水、谷沢川に綺麗な水を流すものです。岡本でへお水送り、等々力でへお水取り、その橋渡しが、用賀の田中橋とは、今様水ものがたりとも言えそうです。車の音でせせらぎは聞えない様ですが、田中橋は静かに時の移り変わりを眺めています。

※谷沢川の橋渡しは、前橋にある。

トビックス

上り賀ディホームに
車椅子専用

上り賀にお住いの大西宮枝、山口美代子さん、お二人の、アルミ缶回収活動による資金で、車椅子が上り賀ディホームに寄贈されました。



六月二十一日、ディホーム開所式に披露されました。どうぞご利用を！

世田谷ローレル
世田谷ティッシュ
世田谷区内で回収された紙パックや古紙が生まれ変わって、「世田谷ローレル」「世田谷ティッシュ」として七月一日より区内の各店で販売されています。



ミニコミ紙ひろばも回を重ね三十二号、今回は高齢化時代を先取り、心豊かないきいきライフをテーマ、皆様よりお寄せいただいた原稿に、お幸せな姿が目につきます。

食糧難、住宅難に悩まされた戦後の生活は高度経済成長を経て、気がついて見れば人生八十年時代、健康な老後の日々が、街かどの話題になってきました。

さて、子ども達にとって楽しい夏休み……本号では私たちの町で行なわれる「夏のイベントマップ」をお届けいたします。ご家族と一緒に出かけ下さい。では、次号は秋の頃（飯田）

